

# 「朝日遺跡と清須城～発掘調査で探る弥生と戦国時代の巨大遺跡～」

中部経済同友会 4月産業懇談会火曜グループに出席しましたのでレポート致します。

日時：4月9日（火）12：00～14：00

場所：若宮の杜 迎賓館 1階 橋の間



代表世話人司会 広井世話人

代表世話人挨拶 深田世話人 ご退任挨拶

新代表世話人挨拶 属ゆみ子世話人



【講師】あいち朝日遺跡ミュージアム 学芸員 梅本博志様 （山眞産業：平出様よりご紹介）



## 講師：梅本博志氏のプロフィール

自分の立場は朝日遺跡ミュージアムにいる学芸員：半分正解 → 週4日朝日遺跡ミュージアムにいるおじさんが正しい学芸員というと・・・硬い、わかりにくい・・・小学生にわかりやすく解説するのが仕事

# 講演テーマ「朝日遺跡と清須城～発掘調査で探る弥生と戦国時代の巨大遺跡～」

今日の話は、朝日遺跡：赤彩土器 と 清洲城：金箔押桐文瓦について

## ～発掘調査で探る弥生と戦国時代の巨大遺跡～



朝日遺跡:赤彩土器(重文)



清須城:金箔押桐文瓦



### 1. 大きく変化した「弥生時代」のイメージ

①弥生時代の始まり・BC3世紀（昭和の教育）

→ BC10世紀：700年さかのぼっている

弥生時代 3000年前～ 温暖化が始まった

→ 2500年くらい前（今の教科書）

・ 登呂遺跡、吉野ヶ里遺跡 発掘の量が増加

・ 科学的精度が向上

・ 定義の変化：土器から生業（水田耕作）に

→ 農耕の期限が、さかのぼるようになってきた

縄文土器を使い水田耕作をしている時代

・ 時代はデジタル的に区分、文化はアナログ的に移行する

→ 江戸時代にパリ万博へ（時代）、明治時代にまだ齧を

ゆっている（文化）

②人々の営み

→ 平和な農耕社会？戦乱の時代：イメージが違う

戦国時代との共通点 防御 武器 戦死者 統一 という分野

で共通 相当似てる

平和な農耕生活と言えるかどうか？難しい

### 1① 弥生時代の始まり

～700年程遡る可能性&その理由～

i 発掘調査事例の増加

ii 科学的な年代測定法の精度の向上

iii 弥生時代の定義の変化

⇒時代区分の基準が「土器」から「生業(水田稲作)」に移る



土器重視 ⇒縄文時代晩期に水田稲作が始まる

生業重視 ⇒稲作が始まる弥生早期は、まだ縄文土器を使用

### 1② 人々の営み

～平和な農耕社会だったのか・戦国時代との共通点～

要素	戦国時代	弥生時代
防 御	惣構(堀・土塁) 逆茂木・乱杭	環濠(堀・土塁) 逆茂木・乱杭
武 器	槍の長身化 鉄砲の登場 当世具足の使用	石鏃の大型化 金属製武器の登場 甲冑と盾の使用
戦 死 者	戦人塚(桶狭間) 信玄塚(設楽ヶ原)	殺傷痕のある埋葬人骨
統 一	戦国大名の割拠 ⇒徳川 VS 豊臣 ⇒江戸幕府	倭人百余国(BC1世紀頃) ⇒邪馬台国 VS 狗奴国 ⇒ヤマト王権(3～4世紀)

弥生時代は狩猟・採集の縄文時代よりも生活は安定したが  
…平和な農耕社会であったというのは難しい

## 2. 発掘調査の成果で探る「朝日遺跡」

海が立地の基本 物を運ぶ 船&港 港までの幹線道路

1975年何も無い 1986年発掘

出土した遺構 銅鐸の埋め方 やな 村のイメージ (ジオラマ)

重要文化財 全国最多 なぜか？

- ①土器・壺・甕・高杯・鉢
- ②石器 打製石鋤鋤 伐採用石斧
- ③木製品
- ④装身具
- ⑤銅鐸と巴形銅器
- ⑥儀礼と祭祀に関わる遺物 ト骨：占いつかう 猪の下顎骨
- ⑦用途不明の円窓付き土器
- ⑧赤彩土器の意匠 日本で一番綺麗な弥生土器

所在地 清須市・名古屋市西区

規模 東西1.4km・南北0.8km(推定 80~100万㎡)

(うち10,169㎡が国史跡「貝殻山貝塚」)

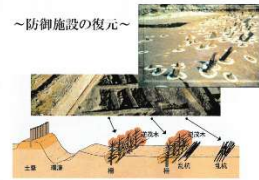
※吉野ヶ里遺跡≒100万㎡(国史跡22万㎡)

登呂遺跡≒8万㎡(国史跡59,900㎡)

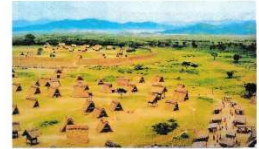
時代 縄文時代・弥生時代・古墳時代

内容 集落跡・墓域

周辺 西に隣接して戦国時代の清須城&城下町



朝日ムラのイメージ(弥生時代中期)



南東部から北東部を望む。〜基本図示部のジオラマから〜

## 〜重要文化財「朝日遺跡出土品」〜

・平成24年9月指定

・弥生集落からの出土品の一括指定として、現状では全国最多の2,028点。

・土、石、木、金属、ガラス、骨角など、弥生時代に使用されていた材質すべてを網羅。

### 出土品が多量・多彩である理由

- ① ものづくりの盛んな巨大な集落であった。
- ② 地下水位が高く木製品が保存されていた。
- ③ 大きな貝塚があり、骨角器が保存されていた。
- ④ 古墳時代以降は耕作地となり、開発事業が少なかった。

①土器・基本の形と用途



- ① 壺(広口と細頸)・貯蔵容器
- ② 釜・煮炊き用(≒鍋・釜)・表面に煤が付いていることも
- ③ 高杯・盛付用
- ④ 鉢・盛付用

② 石器  
打製石鋤と磨製石斧



伐採用石斧



加工用石斧

③ 木製品・農具の主体



簡・楯・杵・等・最近まで形はあまり変わっていない

④ 装身具



勾玉と管玉

骨角製の簪や垂飾



銅鐸

⑤ 銅鐸と巴形銅器



銅鐸の耳

巴形銅器

銅鐸の銚型

銅滴

⑥ 儀礼と祭祀に関わる遺物



ト骨



イノシシ下顎骨

⑦ 用途不明の円窓付き土器(中期)



・尾張部の弥生時代中期の遺跡から出土  
・貯蔵容器である「釜」にあえて穿孔する  
・焼成後に手を加えた例も多い



穿孔部の断面

⑧ 赤彩土器の意匠(後期)



朝日遺跡

九州(中期)

信州(後期)

関東(後期)

### 3. 発掘調査で探る「清須城」織田信長と信雄 2つの清須城

清須と清洲 名古屋と那古野



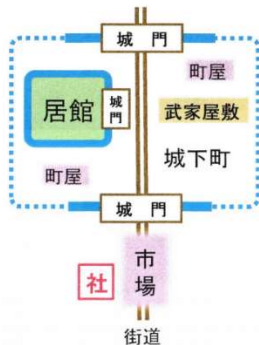
#### 清須と名古屋 ～きよすとなごや～

清須&清洲	時代	名古屋&那古野
清須 清洲	～戦国	那古野
清須 清洲	近世	名古屋 <small>名護屋 那古野</small>
清須 清洲	明治～	名古屋
清須 清洲	2005年7月～	

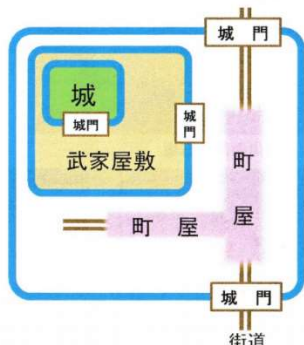
織田信雄：惣構の城郭 出土品 大きさ規模は姫路城クラス 3m～も織田信雄時代

#### 戦国城下町の姿

前期・信長の時代  
方形の居館が基本



後期・信雄の時代  
三重の堀を持つ「惣構」



#### 信雄の清須城(後期)

～ 三重の堀に囲まれた惣構の城郭 ～



(名古屋市・総見寺)

信長の次男の信雄です。  
清須城を惣構の城郭に改修しました。



500 m

### 4. 朝日遺跡の終焉と清須城

湿地化、新川の決壊→名古屋へ移転 (1609年)

#### 清須城から考える朝日遺跡の盛衰

清須城 (発掘調査+文献資料)	朝日遺跡 (発掘調査のみ)
① 成立(室町時代～信長) 五条川沿いの微高地上	① 成立(弥生時代前期) 海岸沿いの微高地上
② 拡大(織田信雄) 後背地まで取り込む形で惣構の城郭に改修	② 拡大(中期～) 後背地まで取り込む形で巨大な環濠集落を形成
③ 終焉(清須越) 城と城下町の弱点を解消するため家康が名古屋へ移転 ⇒江戸幕府の成立期	③ 終焉(古墳時代前期) 集落が消滅する 湿地化が進む ⇒ヤマト王権の成立期
何れも社会の変動期の出来事であったのは偶然だろうか？	

#### 名古屋城と城下町 ～家康の都市計画～



万治年間(1658～1661頃)「名古屋城絵図」と現在の航空写真

梅本博志の著書：日本史の中の愛知県 山川出版社 2024年5月発売

あいち朝日遺跡ミュージアム  
ご来館をお待ちしております